

ケアの倫理と リベラリズム

— 依存、生殖、家族 —

政治思想・法哲学の観点から問い直す依存の意味、そして新たな社会構想へ

岡野八代

(同志社大学)

野崎亜紀子

(京都薬科大学)

内藤葉子

(大阪府立大学)

2018 / 10 / 6 (sat)

時間：13:00-17:30 (12:30 開場)

会場：大阪府立大学 I-site なんば

参加費 800 円 (大阪府立大学学生・教職員は無料)

大阪府立大学女性学研究センター 2018 年度 第 22 期女性学講演会 (第 1 部)

【HP】 <http://www.human.osakafu-u.ac.jp/w-center/>

ケアの倫理とリベラリズム

— 依存、生殖、家族 —

リベラリズムは、自立した責任ある人間が個人の自由と選択を尊重する社会を重視します。一方で女性は従来から、人を育て介護するという営みを担ってきました。ケア労働を期待されたこの立場ゆえに、女性は自由な個人像に十分に適合することはできず、政治的にも経済的にも社会的にも周辺化されてきたといえるでしょう。「ケアの倫理」は、リベラリズムが生存や生死にかかわる領域を不可視化してきたことを批判し、ケアと依存の意味を問い直して「別様の社会の在り方」を構想します。本講演会は政治思想・法哲学の観点からこのテーマに接近します。

第1講演

「自立か依存か：リベラルな主体をめぐる」

内藤 葉子 (大阪府立大学)

第2講演

「ケアの倫理とリベラリズム：リプロダクション（生殖）をめぐる視角から」

野崎 亜紀子 (京都薬科大学)

第3講演

「家族と政治：依存する人間像からの、新たな社会構想」

岡野 八代 (同志社大学)

コーディネーター：内藤葉子 司会：児島 亜紀子 (大阪府立大学)

会場 大阪府立大学 I-site なんば 2F C1

参加費 800円 (大阪府立大学学生・教職員は無料)

【申込方法】

①氏名(ふりがな)、②住所、③電話番号を記して、EメールまたはFAXで下記までお申込みください。

大阪府立大学 女性学研究センター

Eメール：joseigaku@gmail.com FAX：072-254-9947

*当日参加もできますが、資料準備の都合上、できるだけ事前にお申込みください。

*お申込みの際の個人情報、本講座の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等の案内以外に、一切使用いたしません。

【問合せ先】 大阪府立大学 女性学研究センター

TEL：072-254-9948 (土日・祝日を除く、14:00～17:00)

【HP】 <http://www.human.osakafu-u.ac.jp/w-center/>

【会場までのアクセス】

- 南海電鉄「なんば駅(中央出口)」より徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」より徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅(1番出口)」より徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」より徒歩約7分



大阪府立大学 I-site なんば (南海なんば第1ビル 2F)
大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号